



from New York

ニューヨークの金融街を散策



金融街のシンボルとなった「チャージングブル」。この雄牛の猛然たる様は株式市場の力強さとその予測不可能な動きなどを表現しています

マンハッタン島南部のウォールストリートを中心とするニューヨークの金融街には、高層ビルや歴史的建造物が多く立ち並び、ビジネスマンや観光客で絶えずにぎわっています。

街を歩くと、ちょっとした広場や道の空間に軒を連ねる、色とりどりのベンダー（料理などを販売する露店）に目が留まります。ニューヨークのベンダーには長い歴史があり、その昔、近郊の沿岸で豊かに採れたカキの路上販売が元祖だとも言われています。とあるベンダーの店員と話をする、「エジプトから来た」と言います。地価の高いニューヨークでは、こうした路上販売が、移民の生活を支える礎となり、ひいては、大きなビジネスチャンスとなっています。このため、売られる料理も、移民の流入に合わせて変遷してきたそうです。現在では、イスラム人口の増加を映じて、イスラム教徒でも食べられる料理を意味する「HALAL（ハラール）」、と銘打ったベンダーが目立ちます。昼時になると、店の前に行列がで

きることも珍しくはありません。

高層ビルを見上げつつ歩いていると、下から湧き出てくる蒸気に巻き込まれることがあるのでご注意ください。実は、マンハッタン島の地下には、蒸気を運ぶパイプラインが四方八方に張り巡らされています。地下から蒸気が湧き上がるのは、浸入した水がパイプラインによって熱せられ、気化しているためです。金融街には、蒸気船の実用化に成功したロバート・フルトンがその名の由来となったフルトンストリートが東西に延びているなど、「蒸気の街」といった一面もあるのです。蒸気は、高層ビルなどの暖房としてはもちろんのこと、冷房としても転用可能で、夏場に増加する電力需要を抑える働きもしています。

このように、少し散策するだけで色々な発見があるニューヨークの金融街は、本日もさまざまな人々が行き交い、活気に満ちています。

(ニューヨーク連邦準備銀行)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



様々な料理を手軽に味わえるベンダー



所々で湧き上がる蒸気